

日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の比較対照研究

——表情と笑い方を中心に——

李 大年

要旨

本稿は日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の用例を用いて、表情と笑い方の比較対照分析を行い、日中韓三言語における擬態語の数や体系的発達の違い、意味の差異を明らかにすることで、日本語の擬態語の特徴をより明確にすることを目的とする。

擬態語はいろいろと定義されて来たが、ここでは田守(2004)の擬態語の定義を参考にし、音の模倣に主眼を置かず、動作の様態や事物の状態を音で描写する語を擬態語とする。また、各言語の喜び、うれしさ、照れくささなどの気持ちで顔の表情をくずす様子を表す擬態語を笑う様子を表す擬態語とする。

本稿では具体例を挙げながら日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語を分析した結果、笑う様子を表す擬態語の種類が最も多いのは韓国語の方であり、体系的にも発達していることが分かった。また、韓国語の場合は笑う時の「口」、「目」、「口と目」の形状や様態の変化に注目したものであるのに対し、日本語の場合は「目」と「口」を明確にしていなかった場合が多く、顔全体の表情の様態変化を示したものであることが分かった。そして、中国語には擬態語という語はないが、擬態語的表現は存在しており、顔の全体の表情を描写する方法や「口」、「目」に着目して表現する方法などがみられた。

キーワード：笑う様子を表す擬態語 比較対照研究 表情と笑い方

Comparative & contrastive research on mimetic expressions for laughter in Japanese, Chinese, and Korean

-With a focus on facial expression and manner of laughing-

Li Danian

1. はじめに

擬音語は世界の多くの言語に共通して存在する。それに対して擬態語が使われている言語は少ない。しかし、日本語と韓国語には擬音語より擬態語が多く、全体の70%以上を占めている。玉村 (1992: 149) によれば、日本語の音象徴語では、擬態語が全体の73%以上を占め、量的には、完全に擬音語を凌駕している。また、《조선말의성의태어분류사전 (朝鮮語擬声擬態語分類辞典)》(1982) をみると、韓国語の音象徴語では、擬態語が全体の74%以上を占め、擬音語より擬態語の方が多いことがわかる。すなわち、日本語と韓国語は擬音語より擬態語が多く、擬態語が豊富な言語なのである。それに対して中国語には、擬態語が少ない、あるいはないと言われている。野口 (1995) には、日本語は音の象徴性が著しいのに対し、中国語の場合は他の語と結びついたり、概念化・実詞化が進んだものが多く、純粋に擬態語と見なせるかが問題であると述べられている。

2. 先行研究における問題提起

日本語の擬音語・擬態語の研究が始まったのは1930年代で、日本語研究の重要なテーマとして確立するきっかけとなったのは、小林 (1933) の研究であった。音声・音韻構造の観点から始まった擬音語・擬態語の研究はその後様々な視点から研究されてきた。音韻構造、形態的特徴においては、小嶋 (1972)、石垣 (1965)、泉 (1976)、宮地 (1978)、金田一 (1978) などによって記述されてきた。天沼 (1989) は、日本語の擬音語・擬態語を拍数によって分類し、語例をあてはめて、ある種の規則性を認めた。また大坪 (1989) は、擬音語と擬態語に関する総合的

研究であり、言語学的考察から文体的考察、通時的考察に至るまで様々な角度からの考察を行っている。

一方、日本語教育の観点からの研究は、玉村（1989）、生越（1989）などがある。玉村（1989）は、日本語教育の観点から日本語の音象徴語の数、位相、歴史と地方性、表記などの特徴を明らかにし、音象徴語の指導について記述している。生越（1989）は、朝鮮語を母語とする学習者を中心に日本語の擬音語・擬態語教授上の問題点を記述した。

さらに、対照言語学的観点からの研究をみると、英語との比較を通して日本語の擬音語・擬態語の特徴を記述しようとする研究が盛んに行われてきた。筧（1986）、筧・田守（1993）、スコウラップ（Laurence L. Schourup）（1993）は、英語の擬音語・擬態語と日本語の対照研究を行い、その相違点、類似点について詳細に記述している。

なお、玉村（1992）は日本語と中国語における音象徴語の対照研究を行い、日本語の擬態語指向と中国語の擬音語指向の違いは、両言語の構造的差異だけではなく、二つの民族性の違いにも関連すると指摘している。また、呉川（2005）は、日中翻訳小説を中心に擬音語・擬態語の対照研究を行い、日本語と中国語の擬音語・擬態語の相違点を明らかにしている。

擬態語のみ取り上げた研究としては、大谷（1989）がある。大谷（1989）は、擬態語の特徴について形態面と表象内容の両面から考察し、さらに日本語教育における扱いについて述べている。

従来の研究をみると、擬音語に関する研究が多く、擬態語の研究はほとんど行われていない。あるとしても音象徴的特徴、或いは翻訳の際の問題が注目され、擬態語の意味論的研究は少ないのが現状である。また、擬態語はその特徴において擬音語と異なるにも関わらず、区別されずに「擬音語・擬態語」あるいは「オノマトペ」とまとめられる傾向がある。

このような問題点を踏まえ、本稿では以下のようなことを研究目的にする。

①本稿では、音のしないものを音象徴的に表現するため、擬声語以上に音の感

じをつかませることが困難である擬態語を取り上げて調査分析し、先行研究を補うことを目的とする。

②擬態語が豊富な韓国語及び擬態語が少ない中国語との比較対照を行い、日中韓三言語における擬態語の数や体系的発達の度合い、意味の差異を明らかにすることで、日本語の擬態語の特徴をより明確にすることを目的とする。

3. 本稿における調査対象と調査方法

3.1 調査対象及び調査範囲

金田一(1985: 8)によれば、日本語の音象徴語には、触覚に関するものや人間の感情を表すものが多いが、その反面、匂いを表すものや味を表すものは、非常に乏しいと述べている。金田一(1958)の指摘によれば、日本語の擬態語を意味別に分類することによって、日本語の擬態語の種類及び発達状況を把握することも可能である。さらに、他言語の擬態語と比較対照することによって、日本語の擬態語の特徴を明らかにすることができると考えられる。

擬態語は、形態的特徴においても、音韻体系的特徴においても、表象内容のありかたにおいても、人々の感性、思考、文化などと深く係わり合っていると考えられる。特に、感情を表す擬態語の場合、言語によって感情表現の相違による擬態語の数や体系的発達度合い、意味の差異などが大きく異なると想像される。

尚学図書編(1991)『擬音語・擬態語の読本』は、感情と表情を表す擬音語と擬態語を「笑う」、「泣く」、「浮き立つ」、「怒る・腹を立てる」、「気落ちする」、「驚く」、「逸る」、「励む」、「慌てる・もがく」、「ためらう・ひるむ」、「恐れる・脅える」、「感じる」、「仕方・やり方」、「性向」、「感情・表情」、「からだつき」などに分けられている。

今回の調査では、感情を表す擬態語の中で笑う様子を表す擬態語を中心に調査分析を行い、以下のように定義する。

擬態語はいろいろと定義されて来たが、本稿では田守(2004)の擬態語の定義を参考にし、音の模倣に主眼を置かず、動作の様態や事物の状態を音で描写する

語を擬態語とする。

また、喜び、うれしさ、照れくささなどの気持ちで顔の表情をくずす様子を表す擬態語を笑う様子を表す擬態語と定義し、調査対象とする。

なお、擬音語と擬態語の区別においては物事の音を表す語を擬音語、擬音語と擬態語の区別が付かない語、つまり、物事の音と様子の両方を表す語を擬音語・擬態語、物事の様子を表す語を擬態語とする¹。

3.2 参考辞書の選択

本稿では、笑う様子を表す擬態語を調査対象とし、擬態語の収集及び意味分類のために、以下のような辞書を選択した。

日本語の場合は、小野 (2007) 『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典』(小学館) の分類を参考し、韓国語の場合、남 영신 (Nam Yeongsin) (1988) 『우리말분류사전 (朝鮮語分類辞典)』 한강문화사 (韓江文化社) の分類を参考した。中国語の場合は、擬音語・擬態語は野口 (1995) 『中国擬音語辞典』(東方書店) の分類を参考し、擬態語は相原・韩 (1990) 『現代中国語 ABB 型形容詞逆配列用例辞典』(くろしお出版) を参照したものである。

3.3 データの選択

本稿では、擬態語の具体例を挙げるため、日本語の場合「KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス (小納言)」、韓国語の場合はコーパス「KAIST」、中国語の場合は、「YIFAN (亦凡公益图书馆)」で検索した用例を用いた²。

しかし、参考辞書とデータ選択にあたって全ての問題を克服したとは言い難いことをあらかじめ断っておきたい。

4. 日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語

4.1 笑う様子を表す擬態語の種類

本節では、日中韓三言語における擬態語の種類や体系的発達の度合いを調べる

ため、擬音語と擬態語の専門辞典を用いて笑う様子を表す擬音語と擬態語を収集した。その結果は以下のとおりである。

①日本語の場合³

日本語の場合、笑う声やその様子を表す擬音語・擬態語が53種類、笑う様子を表す擬態語が17種類収録されていた。以下その例である。

擬音語・擬態語—53種類

あっはっは あはは あはあは いひひ うっしっし うひひ うひよひよ
うふっ うふふ えへへ おほほ かかか がはは からから かんらんらん
きゃー きゃっきゃっ きゅっきゅっ ぎゃはは くーっ くっ くくっ
くっく くっくっ くーっくーっ くすっ くすくす くすり くすりくすり
くすん けけ けたけた げたげた げたっ けっけっ けらけら げらげら
ころころ どっ どっと はっはっ ははは ひひひ ひっひっ ふふ
ふっふっふふん ぶー ふっ へっへっへへへ ほほほ ほっほっ わはは
わーっ

擬態語—17種類

うはうは えへらえへら にーっ にかっ にこっにこり にっこり
にこにこ にたっ にたにた にたりにたり にっこにこ にやっ にやにや
にやり にんまり へらへら ほくほく

②中国語の場合

中国語の場合、笑う声やその様子を表す擬音語・擬態語が14種類、笑う様子を表すABB型形容詞が23種類収録されていた。以下その例である。

擬音語・擬態語—14種類⁴

啊哈哈 哧 哧哧 嘎嘎 咯咯 哈哈 呵呵 嘿嘿 哞 哄 噗
 噗嗤 嘻嘻 嘻嘻哈哈

ABB型形容詞—23種類⁵

笑哈哈 笑呵呵 笑哈哈 笑蔼蔼 笑咳咳 笑呶呶 笑哑哑 笑吟吟 笑微微
 笑扯扯 笑欣欣 笑眯眯 笑迷迷 笑咪咪 笑弥弥 笑嘻嘻 笑喜喜 笑嬉嬉
 笑咧咧 笑盈盈 笑溶溶 笑融融 笑悠悠

③韓国語の場合⁶

韓国語の場合、笑う声やその様子を表す擬音語・擬態語が45種類、笑う様子を表す擬態語が228種類収集された。以下その例である。

擬音語・擬態語—45種類

갈갈 질질 킁킁 킁 에헤헤 우후후 까르르 깔깔 킬킬 킬킬 캐드득캐드득 캐드득
 캐드득 캐들캐들 쉼쉼 키드득키드득키드득 키득키득 키들키들 짹짹글 피
 피식피식 피식 퍽 하하 해해 허허 헤헤헤 호호 호호 흥흥 흥 희희 히히히 흥흥
 흥 애해해 오호호 와그르르 와하하 왁자그르르 워저그르르 으하하 으핫핫
 으호호 이히히

擬態語—228種類

너털너털 발썌발썌 발썌 발썌 발썌 방그레 방글방글 방글 방긋 방긋방긋 방긋방긋
 방긋 방시레 방실방실 방실 방싯방싯 방싯 배시시 뱅그레 뱅글뱅글 뱅글
 뱅긋뱅긋 뱅긋 뱅긋뱅긋 뱅긋 뱅시레 뱅실뱅실 뱅실 뱅싯뱅싯 뱅싯 뵤썌뵤썌
 뵤썌 뵤썌뵤썌 뵤썌 뵤그레 뵤글뵤글 뵤글뵤긋 뵤긋뵤긋 뵤긋뵤긋 뵤긋 뵤시레
 뵤실뵤실 뵤실 뵤싯뵤싯 뵤실뵤실 뵤실 뵤싯뵤싯 뵤싯 뵤시시 뵤그레
 뵤글뵤글뵤글 뵤긋 뵤긋뵤긋 뵤긋뵤긋 뵤긋 뵤시레 뵤실뵤실 뵤실 뵤싯뵤싯

빙긔 빨쪽빨쪽 빨쪽 빵그레 빵글빵글 빵글 빵긔빵긔 빵긔 빵긔빵긔 빵긔
 빵시레 빵실빵실 빵실 빵긔빵긔 빵긔 빵그레 빵글빵글 빵글 빵긔빵긔 빵긔
 빵긔빵긔 빵긔 빵시레 빵실빵실 빵실 빵긔빵긔 빵긔 빨쪽빨쪽 빨쪽 빵그레
 빵글빵글 빵글 빵긔 빵긔빵긔 빵긔빵긔 빵긔 빵시레 빵실빵실 빵실 빵긔빵긔
 빵긔 빵그레 빵글빵글 빵글 빵긔빵긔 빵긔 빵긔빵긔 빵긔 빵시레 빵실빵실
 빵실 빵긔빵긔 빵긔 살살 상그레 상글방글 상글상글 상긔 상긔방긔
 상긔상긔상긔방긔 상긔상긔 상긔 새물새물 새새 새새덕새새덕 새실새실 셀셀
 셀쪽셀쪽 셀쪽 생그레 생글방글 생글방글 생글생글 생글 생긔방긔 생긔방긔
 생긔생긔 생긔 생긔 생긔방긔 생긔방긔 생긔생긔 생그레 생글생글 생긔방긔
 생긔방긔 생긔 생긔성긔 생긔방긔 생긔성긔 생긔 슬슬 시덕시덕 시물시물
 시시덕시시덕 시실시실 신들신들 실실 싱그레 싱글방글 싱글방글 싱글방글
 싱긔 싱긔방긔 싱긔방긔 싱긔싱긔 싱긔방긔 싱긔방긔 싱긔싱긔 싱긔 쌍그레
 쌍글방글 쌍글방글 쌍긔방긔 쌍긔방긔 쌍긔 쌍그레 쌍글방글 쌍글방글
 쌍글쌍글 쌍긔 쌍긔방긔 쌍긔방긔 쌍긔쌍긔 쌍긔방긔 쌍긔방긔 쌍긔쌍긔
 쌍긔 쌍그레 쌍글방글 쌍글방글 쌍글쌍글 쌍긔 쌍긔방긔 쌍긔방긔
 쌍긔쌍긔 쌍긔 쌍긔방긔 쌍긔방긔 쌍긔쌍긔 양글방글 양글양글 양실방실
 양글방글 해죽해죽 해해죽 해죽 해죽해죽 해벌쪽 해벌쪽해벌쪽 히죽히죽 히죽
 히죽 픽 씩

以上のことから、笑う様子を表す擬音語・擬態語の場合、日本語の方が最も多く53種類である。それに対して笑う様子を表す擬態語については、種類が最も多いのは韓国語の方であり、228種類である。以下中国語の方が23種類、日本語の方が17種類と続く。つまり、日中韓三言語の内、笑う音や様子を表す擬音語・擬態語が多い言語は日本語であり、笑う様子を表す擬態語が最も豊富な言語は韓国語で、体系的に発達していることが分かった。

4.2 笑う様子を表す擬態語の類型

本節では、日中韓笑う様子を表す擬態語の特徴を明らかにするため、音韻の特徴に基づき、以下のように分類する。

①日本語の分類

あ行類型—あはは いひひ うはうは うひひ うひひ うふふ えへへ おほほ

か行類型—きゃっきゃっ くすっ くすり くっく けけ げたげた げらげら

は行類型—はっはっ ははは ひっひっ ひひひ ふっふっ へへへ ほっほっ

に行類型—にかっ にこっ にっこり にこにこ にたっ にやにや にやり

日本語の笑いを表す擬音語と擬態語を「あ行」類型、「か行」類型、「は行」類型、「に行」類型という四つの類型に分類すると、「あ行」類型、「か行」類型、「は行」類型に属すものは笑う声や様子を同時に表す擬音語・擬態語で、「に行」類型に属すものは笑う様子を擬態語であることが分かる。

②中国語の場合

笑〇〇類型—笑微微 (xiàowēiwēi) 笑哈哈 (xiàohaha) 笑咪咪 (xiàomimi)

中国語の場合、「笑〇〇」の構造で、「笑」の後に疊語が付く表現が多い。後ろの疊語部分は、「笑」を修飾したり、補足説明したり、強調の意味のものもある。

③韓国語の分類⁷

갈갈 (kkalkkal) 類型—갈갈 (kkalkkal) 껄껄 (kkeolkkeol) 킬킬 (kilkil)

하하 (haha) 類型—하하 (haha) 호호 (hoho) 후후 (huhu) 히히 (hihi)

방글 (banggeul) 類型—방글 (banggeul) 방긋 (banggeut) 방실 (bangsil)

상글 (sanggeul) 類型—상글 (sanggeul) 상긋 (sanggeut) 싱긋 (singgeut)

상글방글 (sanggeulbanggeul) 類型—상글방글 (sanggeulbanggeul) 싱글빙글

その他—배시시 (baesisi) 실실 (silsil) 씩 (ssik) 피식 (pisik)

韓国語の場合「갈갈」類型と「하하」類型は擬音語であり、「방글」類型「상글」類型、「상글방글」類型は擬態語である。「방글」類型と「상글」類型は類義語が体系的に発達しており、意味的にも類似性が高い。

以上のように、日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の特徴をみると、日本語の場合は、「にこにこ」、「にやにや」など「に行」の擬態語で表現されることが多いが、中国語の場合は、「笑○○」の構造を用いる言葉が多いことがわかった。また、韓国語の場合は、主に「방글」類型、「상글」類型、「상글방글」類型など三種類に分けることができる。

4.3 笑う様子を表す擬態語の意味分析

本節では、日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の意味分析を行い、表情と笑い方の特徴を調べる。

4.3.1 日本語の場合

日本語の「に行」類型の擬態語の意味については、次のような解釈が挙げられている。

にこにこ—人がうれしそうに微笑んでいる様子⁸。

にこり—声を出さずに、嬉しそうな微笑を一回浮かべる様子。

にっこり—声を立てずに、嬉しそうな笑顔を浮かべる様子。

にっ—声を立てずに、瞬間的に唇を左右に引き歯をのぞかせて笑う様子。誉められたりして、満足した場合に用いる。

にたにた—声を立てずに、良からぬ下心のありそうな薄笑いを、顔一面にへばりつかせるように浮かべる様子。

にたり—声を出さずに、いやらしい薄笑いを顔いっぱい浮かべる様子。不気味

悪さを伴う。

にやにや一声を出さずに、薄笑いを浮かべている様子。

にやり一声を出さずに、いやらしい薄笑いを浮かべる様子。

山口 (2003: 351-355) 『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』

日本語の「にかっ」、「にこっ」、「にっこり」、「にこにこ」など「に行」類型の擬態語の意味解釈をみると、「微笑む」、「微笑」、「笑顔」、「薄笑い」など、笑いの種類や特徴を表す表現を用いて説明したものが多く、口を開けて笑うのか、目が笑うのか、目と口が同時に笑うのかについては詳しく説明されていない。つまり、日本語の笑う様子を表す擬態語は「表情・笑い方」を表してはいるが、目、口などの細かい表情から窺える笑いを様々に表し分けることはできない。ここで問題になるのは、辞典の意味記述と当該擬態語の実態が一致しているかどうかである。

本稿ではこれらの擬態語の辞典の意味記述とその実態が一致しているのかどうかを確認するため、「にこにこ」の用例を集めてみた⁹。その結果、全351の検索例のうち、「口」を対象語とする用例はなく、「目」を対象語とする用例は1例で、「目」或いは「口」を対象語とする例文が非常に少ないことがわかった。例(1)は「目」を対象語とする例である。一方、例(2)のように「顔」を対象とする用例は21例で、例(3)と例(4)のように「目」、「口」などを明記していない用例は329例であり、「目」或いは「口」という語と共起したものは少なく、対象語を欠いた例文が多かった。つまり、日本語の笑う様子を表す擬態語は笑う時の顔全体の表情を表現していることが分かった。

(1) 「みさんはものすごく、嬉しいわ！」なんて、胸のところで手を合わせ、目を三日月にしてにこにこしていったのである。

(2) 鐘家に来るたび、いつも可慧は、にこにこした顔で迎え、翠薇は温かく気を配り、文牧は冷静な目で審査し…

(3) お客はいかにも楽しそうににこにこしながら、何か言った。

(4) 彼女はうつむいていたがにこにこ笑っているのは見えた。

4.3.2 中国語の場合

音象徴的特徴から考えると日本語の擬態語に当たる語は中国語にはないが、それに相当する語彙はある。形容詞、動詞の強調形ABB型、AABB型、ABAB型がそうである。これらの言葉の形態的特徴は日本語の擬態語とよく似ていて、統語的にも副詞的修飾語や述語に用いられる。野口(1995)は、ABB型形容詞は一種の擬態語と考えられる。ただ日本語は音の象徴性が著しいのに対し、中国語の場合は他の語と結びついたり、概念化・実詞化が進んだものが多く、純粋に擬態語と見なせるかが問題であると述べられている。つまり、中国語には擬態語という語はないが、擬態語的表現は存在しているということである。笑う様子を表す擬態語も同様である。ほとんど「笑○○」の構造で、中国語の「笑」の後に畳語が付く表現が多い。後ろの畳語部分は、「笑」を修飾したり、補足説明したり、強調の意味を表している。

中国語の「笑○○」の構造の言葉の意味については、次のような解釈が挙げられている¹⁰。

笑微微 (xiàowēiwēi) 一意思和“笑眯眯”一样，形容微笑的样子。(「笑眯眯」と同じ意味である。微笑む様子を形容する。)

笑盈盈 (xiàoyíngyíng) 一形容微笑的样子。(微笑む様子を形容する。)

笑眯眯 (xiàomīmī) 一形容微笑时眼皮微微合拢的样子。(微笑む時、目を細める様子を形容する。)

笑嘻嘻 (xiàoxīxī) 一形容微笑的样子。(微笑む様子を形容する。)

笑哈哈 (xiàohāhā) 一形容笑的样子。(笑う様子を形容する。)

笑吟吟 (xiàoyīnyīn) 一形容微笑的样子。(微笑む様子を形容する。)

笑咧咧 (xiàoliēliē) 一形容笑时嘴角向两边伸展的样子。(笑う時、唇を左右に引く様子を形容する。)

笑う様子を表す語を笑い方によって分けると、笑う声に着目して描写する語彙は「笑哈哈」、笑いの程度を表す語は「笑盈盈」となる。また、「目」、「口」に着目する語もあり、目元の変化を捉える語彙は「笑眯眯」、口元に重きをおく語彙は「笑咧咧」となる。

以下の例(5)～例(8)は、中国語の具体例である¹¹。例えば、例(6)の「笑眯眯」は目を細めて笑う様子を表す言葉だが、例文の中では「目」という対象語を明記していない。また、例(7)の「笑咧咧」は口を左右に引いて笑う様子を表す言葉だが、「口」という対象語を明記していない。つまり、中国語の場合は「目」、「口」という語と共起する用例が少なく、対象語を欠いた場合が多いことが分かる。

(5) 小玉笑吟吟 (xiàoyīnyīn) 的捧着人参茶进来。

(小玉は微笑みながら高麗人参茶を持って入ってきた。)

(6) 秦奶奶倒出八宝粥、拿出小笼包子、笑眯眯 (xiàomīmī) 地帮孙子端过去。

(秦おばあさんは八宝粥を注ぎ、小籠包を出して目を細めて笑いながら孫のために持っていった。)

(7) 他笑咧咧 (xiàoliēliē) 地回答。… 猛一看、飞船像一个发着黄光的小球、可是、很快地变得越来越大。

(彼は口を左右に引いて笑いながら答えた。…ふとみると、飛行船はまるで黄色い光を発する小さなボールのようだった。しかし、どんどん大きくなった。)

- (8) 顺着坤明的手指方向、果然看到那俩家伙笑嘻嘻(xiàoxīxī)地向我们走来。
(坤明が指差している方向をみると、あいつら二人がにやにや笑いながら私達の方に向かって歩いてくるのが見えてきた。)

4.3.3 韓国語の場合

韓国語の「방글」類型、「상글」類型、「상글방글」類型の擬態語の意味解説をみると、以下ようになる。

① 「방글」類型

방글 (banggeul) — 입을 조금 벌리고 소리 없이 귀엽고 보드랍게 한 번 웃는 모양. (声を立てずに、口だけやや開けて、しきりにやさしく笑っている様子。)

방긋 (banggeut) — 입을 예쁘게 약간 벌리며 소리 없이 가볍게 한 번 웃는 모양. (口をきれいにやや開けて、声を立てずに軽く一瞬笑う様子。)

방그레 (banggeure) — 입만 예쁘게 조금 벌리고 소리 없이 보드랍게 웃는 모양. (口だけきれいにやや開けて、声を立てずに柔らかく笑う様子。)

방글방글 (banggeulbanggeul) — 입을 조금 벌리고 소리 없이 귀엽고 보드랍게 자꾸 웃는 모양. (口をやや開けて声を立てずに可愛らしく優しくしきりに笑う様子。)

국립국어연구원(2008) 『표준국어대사전 (標準國語大辭典)』

② 「상글」類型

상글 (sanggeul) — 自然な態度で、しきりに可愛らしく 目で笑う。

상긋 (sanggeut) — 声を立てずに、優しく 目で笑うさま。

상그레 (sanggeure) — 声を立てずに、目だけでゆっくり可愛らしく笑うさま。

青山秀夫編 (1991) 『朝鮮語象徴語辭典』

③ 「상글방글」類型

상글방글 (sanggeulbanggeul) — 눈과 입을 귀엽게 움직이며 소리 없이 정답

고 환하게 웃는 모양. (目と口を可愛らしく動かしながら声を立てずに優しく明るく笑う様子.)

싱글벙글 (singgeulbeonggeul) —눈과 입을 슬며시 움직이며 소리 없이 정답고 환하게 웃는 모양. (目と口を動かしながら声を立てずに優しく明るく笑う様子.)

국립국어연구원편 (2008) 『표준국어대사전 (標準國語大辭典)』

韓国語の「방글」類型は、口の形状、「상글」類型は、目の様態、そして「상글방글」類型は、目や口の様態に注目した意味記述が行われている。このような辞典の意味記述をみると、日本語の場合は、喜びなどの心情を顔の表情そのもので表すのに対して、韓国語の場合は、「笑い」を明示する目と口の形状、様態に着目して表すのが分かる。ここで問題になるのは、辞典の意味記述と当該擬態語の実態が一致しているかどうかである。以下その具体例を見る。

① 「口」を対象語とする「방글」類型の擬態語

(9) 방긋 (banggeut) —웃는 고운 입, 예쁘게 동그란 눈동자,분단장하니 더욱 아름답다. (にこっと笑っている美しい口、丸くてきれいな瞳、化粧

をすると一層美しい。)

(10) 그는 입꼬리만 살짝 움직여 빙글빙글 (binggeulbonggeul) 웃으며 물었다. (彼は口元だけをやや動かして、にこにこ笑いながら聞いた。)

(11) 옛일을 기억하는 그의 입가에 어느덧 빙그레 (binggeule) 미소가 떠올랐다. (昔のことを思い出したのか彼の口元にいつのまにかにっこりとほほ笑みが浮び上がった。)

(12) 가름한 계란형 얼굴에 까맣게 빛나는 쌍꺼풀 눈, 방긋 (banggeut) 웃는 선

생의 하얀 이가 가지런했다.

(細い顔に黒く光る二重目、にこっと笑う時の先生の白い歯…)

例(9)～例(12)には、文中に「口」と「歯」を用いて笑う様子を表したものである。以上のように、「방글」類型の擬態語は辞典の意味記述だけでなく、実例においても「口」で笑う意味を表すものとして出現しているのである。

②「目」を対象語とする「상글」類型の擬態語

例(13)～例(15)のように、「상글」類型の擬態語は、「目」と共起して「目」で笑う様子を強調する。従って、「상글」類型の擬態語は「口」より「目」に注目し、当該の「笑い」が目の様態によって示されたものであることが言える。

(13) 치삼의 끄는 손을 뿌리치더니 김침지는 눈물이 글썽한 눈으로 싱그레 (singgeule) 웃는다. (チサムの手を振りはなして金僉知はうろろうした目でにこりと笑っている。)

(14) 무슨 유리구슬 같은 노리끼 한 눈동자가 생글생글 (saenggeul saenggeul) 눈웃음을 뿌릴 때도 이뻐고. (ビー玉のような黄色い瞳がにこにこ微笑む時も美しい)

(15) 그녀는 노상 눈에 생글생글 (saenggeulsaenggeul) 웃음을 띠고 그들을 안내했는데 나중 인사를 하고 보니까 광주가 고향인 배유라 양이었다. (彼女はいつも目に微笑みを浮かばせて彼らを案内していたが…)

以上のように、韓国語において「방글」類型の擬態語は「口」や「口元」を対象語として口を開けて笑う様子を表している。そして「상글」類型の擬態語の場合、「目」を対象語として「目」で笑う様子を強調している。

③ 「目」と「口」を明記しない「싱글방글」類型の擬態語

(16) 덜렁이 호준이가 여전히 싱글방글 (singgeulbeonggeul) 미소를 띠며 내게 말했습니다. (あわてんぼうのホジュンはにこにこで微笑みながら私にいいました。)

(17) 그러면서 둘이서 연해 P를 건너다보며 싱긋병긋 (Singgeut beonggeut) 웃는다. (そうしながら二人はPをじろじろ見ながらにこにこ笑っている。)

例 (16) ~ 例 (17) のように、目の変化を表す「싱글」
と口の変化を表す「방글」の意味の両方が含まれている「싱글방글」
類型の場合は「目」と「口」を対象語とする用例は少なく、
顔を対象語とするか、対象語を欠いた例が多い。

5. 分析結果

本稿では具体例を挙げながら日中韓三言語における笑う様子を
表す擬態語を分析することから以下のようなことが明らかになった。

笑う様子を表す擬態語の種類が最も多いのは韓国語の方であり、
体系的にも発達していることが分かった。韓国語の笑う様子を
表す擬態語は笑う時の「口」、「目」、「口と目」の形状や
様態の変化に注目したものであるのに対し、日本語の当該
擬態語は「目」と「口」を明確にしていない場合が多く、
顔全体の表情の様態変化を示したものであることが分かった。
中国語の場合は顔の全体的表情を描写する方法や「口」、
「目」に着目して表現する方法などがみられた。

6. 考察

日本語は擬音語・擬態語が豊富であるとよく言われているが、
今回の調査結果をみると、笑う様子を表す擬態語に関しては
数量も種類も意外と少なかった。また、笑う時の「目」と
「口」など、顔の一部分に着目することなく、顔全体の
表情の様態変化を示したものであることが分かった。

なぜ韓国語の笑う様子を表す擬態語は体系的に発達しているだろう。

정 인승 (Jeong Inseung) (1938) の母音相対表によると韓国語の母音は以下の表1のような語感を持っている¹²。

表1 정인승 (1938) の母音相対表

대소상대 광협상대	넓은 어감広い語感 (전설음류)				좁은 어감狭い語感 (후설음류)			
	저모음류 (작은 어감小語感)	ㅏ a	ㅓ ae	ㅑ ya	ㅓ wa	ㅘ wae	ㅚ o	ㅜ oe
고모음류 (큰 어감大語感)	ㅓ eo ㅡ eu ㅣ i	ㅕ e ㅛ ㅜ ui ㅣ	ㅑ yeo ㅣ	ㅓ wo	ㅘ we	ㅜ u	ㅛ wi	ㅠ yu

(정인승 (1938) により筆者作成)

また、이 승녕 (li Sungnyeong) (1958) は、陽性と陰性の母音の音象徴的意味を以下のようにまとめている。

강박계열強迫系列 (陽性) - 近 輕 強 狹 剛 薄 小 明 急 清 盡 少 固

관유계열寬柔系列 (陰性) - 遠 重 弱 廣 柔 厚 大 暗 緩 濁 增 長 軟

정 인승 (1938) と이 승녕 (1958) の理論に拠って分析すると、「빙글빙글」、「싱글싱글」の場合は、陰性母音で「遠 重 弱 廣 柔 厚 大 暗 緩 濁 増 長 軟」などの音象徴的意味があり、「방글방글 (Banggeulbanggeul)」、「생글생글 (Saenggeulsaenggeul)」の場合は、陽性母音で「近 輕 強 狹 剛 薄 小 明 急 清 盡 少 固」などの音象徴的意味がある。

青山 (1977) は、韓国語における子音の音象徴的意味について述べている。それをまとめると以下ようになる。

1 音節頭音

閉鎖音—衝突・破裂

破擦音—破裂・波動

摩擦音 ㅅ / s /—摩擦・擦過・流動

流音 ㄹ / r /—響き・持続

2 音節末音

閉鎖音—急な停止・変な変化

ㄱ /k/—急な停止・鋭い終結

ㄷ /t/—急な停止・軽い中止・鋭さ

ㅍ /p/—急な停止・屈折

鼻音—響き・持続

ㅇ /ŋ/—響き・余韻・漸次的な消滅

ㄴ /n/—軽い響き・弾みのある移行

ㅁ /m/—緩行・停滞・閉鎖

流音 ㄹ /l/—弾み・揺れ・振動

母音—持続

このように韓国語の場合、母音の音象徴的特徴、子音の音象徴的特徴を利用して意味的に微妙に異なる擬態語を生み出すことができる。また、子音と母音を交替することによって、擬態語を数多くつくることができる。例えば、방글방글 (banggeulbanggeul) と 병글병글 (beonggelbeonggel) は母音交替によるものであり、방긋 (banggeus) と 방긋 (bangkkeus) は子音交替によるものである。また、방글방글 (banggeulbanggeul) と 방실방실 (bangsilbangsil) は語末音節の交替による変化を表し、방글방글 (banggeulbanggeul) と 방긋방긋 (banggeusbanggeus) は語末子音の交替による変化を表している。そして、방글방글 (banggeulbanggeul) と 방그레 (banggeure) は音節の拡大によるもので、

방긋방긋 (banggeus banggeus) と방긋 (banggeus) は反復型と単純型、상글방글 (sanggeul banggeul) は合成語である。

つまり、韓国語の笑いを表す擬態語は形態の特徴を活かし、笑う時の表情や口、目の変化、笑いの長さなどを演出することができ、数多くの笑いを表す擬態語を生産することが可能である。

また、今回の調査で笑う様子を表す擬態語の場合、日本語には「に行」種類の擬態語が一種類あるのに対し、韓国語には「방글」類型と「상글」類型、「상글방글」種類の三種類もあることが分かった。それは日本人と韓国人の笑う文化の本質の違いによるものだと考えられる。韓国語において「방글」種類の擬態語は「口」や「口元」を対象語として口を開けて笑う様子を表している。そして「상글」種類の擬態語の場合、「目」を対象語として「目」で笑う様子を強調している。「상글」と「방글」の意味が両方含まれている「상글방글」の場合は「目」と「口」などを対象語とする用例は少なく、「表情」を対象語とするか或いはそれを明確にしない場合が多い。日本語の「に行」類型は、「目」と「口」を対象語とするのではなく、明確にしない場合が多い。

つまり、日本語の笑う様子を表す擬態語は笑う時の顔全体の表情の変化に注目するのに対して、韓国語の笑う様子を表す擬態語は笑う時の口の変化や目の変化に注目しており、笑う様子を表す表現が細かくて豊富である。

中里 (2007) では、笑いを表すオノマトペのうち、近代でも生み出されており、表情・笑い方を表す擬態語に関しては、近代になって生まれたものはほとんどない。また、明治期に顔全体の表情や頬、口元、歯、目、眉などに焦点を当てて描写する表現が多く見られたのは「にこにこ」、「にっこり」となどの擬態語では表し分けることができなく、微妙な笑いが巧みに表現されないからだと述べられている。それは、大野 (2006) で述べられたように、擬態語によって表現し理解する習慣は、事実を概念によって捉え、分析的に詳細に表現し、理解するよりも、むしろ、全体表象を、そのまま無分析的に一括して受け取り、それに感覚的に反応し、その感覚を再現し、またそのままで納得了解する仕方、つまり、日本人の

思考の傾向と表現法などが反映されていると考えられる。

허 경희 (1989: 63-64) によれば、日本語に比べて韓国語において豊富であるのは、笑いに関するものである。これは、笑いに関する個々の音象徴語の意味範囲が、日本語に比べて韓国語の方が狭いことを表す。笑いに関する音象徴語においては、韓国語の方が細分化されているということであると述べられている。今回の調査でも韓国語の笑う様子を表す擬態語の場合、種類も多く、日本語より具体的で、細かい特徴が見られた。

そして中国語の場合は、形態的特徴が擬態語とよく似ているABB型の笑う様子を表す言葉が多くみられた。また、「微笑」、「呆笑」、「傻笑」などのように「笑」に修飾、限定する形態素を付けて説明的に表現する言葉が発達していることから、日韓両言語における擬態語の定義には適用しないが、笑う様子を表す言葉は発達していると言える。つまり、日本語と韓国語の場合は音象徴的特徴が著しいのに対し、中国語の場合は実詞化が進んだものが多く、幅広い表現力を持っていると考えられる。

7. 終わりに

本稿は日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の実態を具体例を挙げながら検証したものである。

本稿では笑う時の口、目など顔の表情の変化に焦点をおいて日中韓三言語における笑う様子の擬態語について語ったが、男女差、年齢差、笑う時の心理的側面については研究することができなかった。今後はこのような問題点を踏まえて研究を進めていきたい。

注

- 1 飛田・浅田 (2002) は、日本語の擬音語と擬態語の区別は簡単ではないと述べている。たとえば、雨が降っている音が聞こえて、「雨がザーザー降ってるよ」と言う場合「ザーザー」は擬音語であるのに対して、音は聞こえず、窓から雨が激しく降っている様子を見て「雨が

- ザーザー降ってるよ」と言う場合「ザーザー」は擬態語と判断すべきだと述べている。飛田・浅田(2002)はこのような語についてはあえて擬音語と擬態語の区別を付けず、「～の音や様子を表す」と記述している。
- 2 日本語の用例は2006年から開発されている国立国語研究所の「KOTONOHA現代日本語書き言葉均衡コーパス(小納言)」を利用し、韓国語の用例は1994. 10～1997. 12の間韓国文化観光部と科学技術部の支援を受けてつくられたコーパス「KAIST」を使い、中国語の場合は、「YIFAN(亦凡公益图书馆)」を利用する。
 - 3 日本語の分類は小野(2007)『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトベ辞典』(小学館)による分類である。なお、ひらがな、カタカナ表記については、辞書の見出し語の表記に従う。本稿では、笑う声。また、その様子を表す語を「擬音語・擬態語」と記す。また、笑う様子を表す語を擬態語と記す。
 - 4 中国語の擬音語・擬態語の分類は、野口(1995)『中国語擬音語辞典』(東方書店)による分類である。
 - 5 相原・韩(1990)『現代中国語ABB型形容詞逆配列用例辞典』(くろしお出版)を参照したものである。
 - 6 남 영신(Nam Yeongsin)(1988)『우리말분류사전(朝鮮語分類辞典)』한강문화사(韓江文化社)による分類である。
 - 7 박동근(1998)は、笑いを表す擬音語、擬態語を音声によって4つの類型に分類している。「상글방글」類型は筆者が加えたものである。
 - 8 文中の下線と太字は筆者によるものである。
 - 9 日本語の場合「KOTONOHA現代日本語書き言葉均衡コーパス(小納言)」による検索例である。
 - 10 相原・韩(1990)『現代中国語ABB型形容詞逆配列用例辞典』(くろしお出版)の意味解釈を引用したもので、筆者が訳したものである。
 - 11 「YIFAN」で検索した用例である。
 - 12 表1は、정인승(1938)の母音相対表を参照したものである。

参考文献

- 相原茂・韩秀英 (1990) 『現代中国語ABB型形容詞逆配列用例辞典』、くろしお出版、東京
- 青山秀夫編 (1977) 「朝鮮語の音象徴“li”」『言語』第6巻10号
- 青山秀夫編 (1991) 『朝鮮語象徴語辞典』大学書林、東京
- 阿刀田稔子・星野和子 (1993) 『擬音語・擬態語使い方辞典』創拓社、東京
- 天沼寧 (1989) 「擬音語・擬態語」『日本語学』第68号、明治書院、13-29頁
- 石垣幸雄 (1965) 「擬声語・擬態語の語構成と語形変化」『言語生活』第171集、筑摩書房、30-36頁
- 泉邦寿 (1976) 「擬声語・擬態語の特質」『日本語講座第四巻 日本語の語彙と表現』大修館書店、105-152頁
- 小野正弘 (2007) 『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトベ辞典』、小学館、東京
- 大野晋 (2006) 『語学と文学の間』岩波書店、東京
- 大谷洋子 (1989) 「擬態語の特徴」『日本語学』第68号、明治書院、45-55頁
- 大坪併治 (1989) 『擬声語の研究』明治書院、東京
- 生越まり子 (1989) 「日本語の擬音・擬態語教授上の問題点— (朝鮮語 韓国語) を母語とする人々に対して—」『日本語学』第68号、明治書院、71-82頁
- 筧寿雄 (1986) 「英語の擬音語・擬態語—主として日本語との対比において」『日本語学』第5巻第7号、明治書院、39-46
- 筧寿雄・田守育啓 (1993) 『オノマトビア 擬音・擬態語の楽園』頸草書店、東京
- 小嶋孝三郎 (1972) 『現代文学とオノマトベ』桜楓社、東京
- 金田一春彦 (1978) 「擬音語・擬態語概説」浅野鶴子(編)『擬音語・擬態語辞典』角川書店、3-25頁
- 呉川 (2005) 『オノマトベを中心とした日中対照言語研究』白帝社、東京
- 小林英夫 (1933) 「國語象徴音の研究」『言語学方法論考』三省堂、96-143頁
- 尚学図書編 (1991) 『擬音語・擬態語の読本』小学館、東京
- 玉村文郎 (1992) 「日本語と中国語における音象徴語」『日本語と中国語の対照研究文集 (下)』くろしお出版、145-158頁
- 田守育啓 (2004) 『オノマトベ擬音・擬態語を楽しむ』岩波書店、東京
- 中里理子 (2007) 「笑いを描写するオノマトベの変遷—中古から近代にかけて—」『上越教育大

学研究紀要』第26巻

野口宗親 (1995) 『中国擬音語辞典』東方書店、東京

浅野鶴子・金田一春彦 (1985) 『擬音語・擬態語辞典』角川書店、東京

許卿姫 (1989) 「日・韓両言語における音象徴語の比較対照的研究」『日本語学』第68号、明治書院、56-70頁

宮地裕 (1978) 「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学』第115集、日本書房、30-39頁

山口仲美 (2003) 『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』講談社、東京

ローレンス・スコウラップ (Laurence L. Schourup) (1993) 「日・英オノマトベの対照研究」『言語』第22巻第6号、大修館書店、48-55頁

이승녕 (I Sungnyeong) (1958) <음성상징재론 (音声象徴再論)> <<서울대문리대학보 (ソウル大文理大学報)>> 제7권제1호 (第7巻第1号)、서울대학교 문리과대학학생회 (ソウル大学校文理科大学学生会)

국립국어연구원 (国立国語研究院) (2008) <<표준국어대사전 (標準国語大辞典)>> 두산동아 (Dusandong), 서울 (ソウル)

남영신 (Nam Yeongsin) (1988) 『우리말분류사전 (朝鮮語分類辞典)』한강문화사 (韓江文化社)、서울 (ソウル)

박동근 (Bak Donggeun) (2000) <‘웃음표현 흉내말’의 의미 기술 (‘笑い表現まね語’の意味記述)> <<한글 (ハングル)>> 제247호 (第247号)、한글학회 (ハングル学会)、159-189頁

박용수 (Bak Yongsu) (1989) 『우리말분류사전 (朝鮮語分類辞典)』한길사 (韓吉社)、서울 (ソウル)

연변언어연구소편 (延辺言語研究所編) (1982) <<조선말의성의태어분류사전 (朝鮮語擬聲分類辞典)>> 연변人民出版社、연길 (延吉)

정인승 (Jeong Inseung) (1938) <어감 표현상 조선어의 특징인 모음 상대 법칙과 자음 가세법칙 (語感表現上の朝鮮語の特徴である母音相対法則と子音加勢法則)> <<한글 (ハングル)>> 제6권제9호 (第6巻第9号)、한글학회 (ハングル学会)